

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道16号 ^{すぎたこうさてんかいりょう} 杉田交差点改良	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自： ^{かながわけんよこはましかなざわくとみおかひがし} 神奈川県横浜市金沢区富岡東1丁目 至： ^{かながわけんよこはましそごくすぎた} 神奈川県横浜市磯子区杉田5丁目	延長	0.5 km		
事業概要	杉田交差点改良は、一般国道16号と横浜環状3号線との交差点である青砥坂交差点と、一般国道16号と横浜市道磯子476号線（産業道路）との交差点である杉田交差点間の慢性的な交通渋滞の解消、沿道環境の改善、横浜市内の臨海部と内陸部のアクセス強化を目的とした約0.5 kmの拡幅事業である。				
H元年度事業化	S32年度都市計画決定 (S62年度変更)	H4年度用地着手	H10年度工事着手		
全体事業費	約100億円	事業進捗率	約84%	供用済延長	0.3 km
計画交通量	30,200台/日				
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 1.1 (残事業) 9.1	総費用： (残事業)/(事業全体) 13/113億円 (事業費：12/112億円 維持管理費：1.2/1.2億円)	総便益： (残事業)/(事業全体) 121/121億円 (走行時間短縮便益：111/111億円 走行経費減少便益：9.3/9.3億円 交通事故減少便益：0.66/0.66億円)	基準年： 平成20年度	
感度分析の結果	事業全体・残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.0~1.1（交通量±10%） 事業費：B/C=1.0~1.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=0.9~1.3（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C=8.8~9.4（交通量±10%） 事業費：B/C=8.3~10.0（事業費±10%） 事業期間：B/C=8.9~9.3（事業期間±20%）				
事業の効果等	・横浜市内の臨海部と内陸部のアクセス強化 ・周辺道路のネットワーク整備に伴う慢性的な交通渋滞の解消				
関係する地方公共団体等の意見	・神奈川県地域防災計画（第1次路線緊急輸送路）や第3次渋滞対策プログラムに位置づけられている。 ・横浜市のスムーズ交差点プラン計画に位置づけられている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・平成11年に横浜環状3号線が一般国道16号へ接続。 ・平成13年度に首都高速湾岸線が全線開通。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成11年度、青砥坂交差点に右折レーンを設置し、平成15年度に青砥坂・杉田交差点の右折レーンを延伸し、平成18年度に擁壁工事に着手したところである。 暫定整備では、直進・右折車線の増設、歩道橋（一部）の整備等を予定。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	一部代替地の確保の問題や用地補償協議が難航し用地の取得に時間を要している。 用地取得率が約88%進捗し、平成22年度までに暫定整備を完了させる予定。暫定整備完了後は、交通状況に応じて、必要な措置を講じて行く。				
施設の構造や工法の変更等	-				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	用地・工事の進捗が進んでおり、早期の効果発現を図ることが適切である。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。